

先生・お薦めの本

ちん しゅんしん
私と陳舜臣さん

地歴 公民科 永盛 光国 先生

先日計報が報じられた作家の陳舜臣氏は、私が地歴・公民科の教員をすることになったきっかけを与えてくれた人物の一人である。もともと日本や中国の歴史小説等が好きで、吉川英治氏の『三国志』等を読んでいたのであるが、『三国志』がフィクションでは無く、ある程度史実に基づいた作品であったことに驚き、その歴史的背景について興味を持った頃に出会ったのが、陳舜臣氏の『小説十八史略』であった。

十八史略に出会ったことで通史や歴史全般に興味を持つことになった。更には『三国志』そのものについても、その基である、羅貫中の『三国志演義』や陳寿の『三国志』にも興味を持ち、関連した書籍を読むことの大切さに気づく端緒ともなった。

その後も多くの作家の歴史作品を読むことになるが、大人になって宮城谷昌光氏の『天空の舟』を読んで、ふと中学生の頃、陳舜臣氏の『小説十八史略』の第一巻（現在は上下二巻ですが、当時は全六巻で刊行されていました）を読んだことを懐かしく思い出したのも、もう20年近く前の話である。

なお、私は歴史小説を読むときに、本に地図がついている場合はそれを書き写して乗代わりに挟んで読んでいた。特に世界が舞台の場合は、日本の地名のようにすぐに連想することができなかつたので、場所を確認しながら読むことができたので便利であった。もしかしたら今地理を教えているのも、そのお陰かもしれない。

今回、不肖の私がこの原稿を書くことになったのは、司書の俣木先生と陳舜臣氏が大往生された話をしたことがきっかけだったが、お陰で敬愛館で陳舜臣氏の著作を読み直す機会を頂いた（感謝しています）。敬愛館には氏の代表作の『阿片戦争』や『琉球の風』（同名の大河ドラマの原作である）など、歴史選択者や鹿児島県民であれば読んでおいてほしいという本が沢山ある。是非気楽な気持ちで敬愛館を訪問してみてください。



貸出統計 (1月～2月20日(金)まで*727冊)

学年	1年								2年								3年							
	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8
貸出数	4	6	11	9	2	5	13	7	22	21	3	6	19	26	6	14	50	129	47	87	79	29	74	58
合計	57冊								117冊								563冊							

4月の貸出冊数・547冊 5月の貸出冊数・667冊 6月の貸出冊数・226冊 7月の貸出冊数・416冊
 8月の貸出冊数・119冊 9月の貸出冊数・394冊 10月の貸出冊数・324冊 11月の貸出冊数・425冊
 12月の貸出冊数・269冊 1月の貸出冊数・322冊

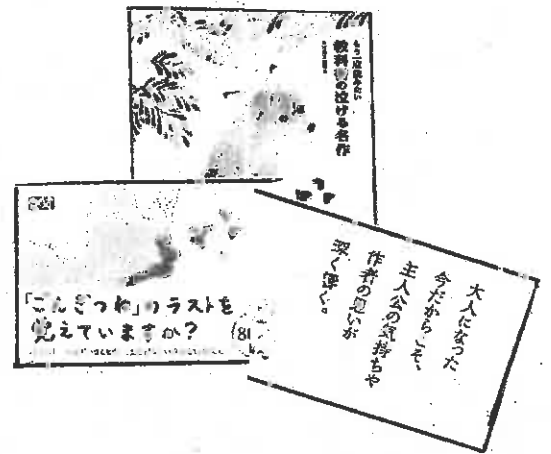
教科書の泣ける名作

昨年の暮れに出版された『もう一度読みたい教科書の泣ける名作』『もう一度読みたい教科書の泣ける名作再び』(学研)が、ベストセラーとなっています。その表紙につけられた帯には「ごん狐のラストを覚えていますか?」とあります。皆さんは覚えていますか?

私たちはたくさんの物語を国語の教科書で読んできました。主人公の気持ちを考えたり、言葉の意味や漢字を覚えたりしてきました。教材として物語を読んでいた私たちは、物語の本当の面白さに気づくことなく、義務として読んできたのかもしれない。小学校の国語の時間に学習した『ごん狐』を、高校生になった今、もう一度読んでみると「ごんがかわいそうだと思います」「ごんがいたずらをしたからです」といった感想ではなく、もっと深い思いが湧いてくるかもしれません。

『ごん狐』新美 南吉 著

いたずら好きの子狐ごん。ある秋の日、ごんは川で魚を取っている兵十(へいじゅう)を見かけます。ごんは、兵十が丘にあがったすきに、取った魚を網から取り出し川に投げ始めました。最後にうなぎをつかもうとしますが、ぬるぬるして投げられません。うなぎはごんの首に巻き付いてきました。その時、兵十が戻ってきました。ごんは慌てて山へと逃げ帰りました。しばらくして、ごんが里へと下りた時のことです。どこかで葬式が行われている様子です。兵十のお母さんの葬式だったのです。ごんは考えました。あのうなぎは、病の母親に食べさせるためのものだったのかと……。次の日からごんの「つぐない」が始まります。しかし、ごんは兵十に……。



『走れメロス』太宰 治 著

純朴な羊飼いのメロスは、妹の婚礼の準備のためにシクラスの町へ出かけました。そこでメロスは人間不信のため多くの人を処刑している暴君の話を聞きます。メロスは激怒します。メロスは城へと向かいますが、すぐに捕らわれてしまいます。そして処刑……。しかし、メロスは妹に婚礼を挙げさせたいと訴え、またすぐに城へ戻ってくることを約束し、処刑を延ばしてもらいます。メロスが城に戻ってくるまで親友・セリヌンティウスが人質となりました。授業で中学生の私たちは、メロスの心の動きや、友情・信頼について考えました。

『大造じいさんとガン』『手袋を買いに』『杜子春』『モチモチの木』『高瀬舟』『レモン哀歌』『スーホのしろいうま』『あかいろうそく』『トロッコ』……。国語の時間に読んできた物語を、もう一度読んでみませんか。

司書室から

センター試験前のことです。放課後の学習室で40名ほどの3年生が自習していました。英語科の福留先生が来られ、3年生ひとりひとりにお声をかけながら巡視してくださいました。3年生はセンター試験前の緊張が少し和らいだかのよう、嬉しそうにうなずいたり答えたりしていました。以前、福留先生は放課後自習をする生徒の姿をご覧になり、「愛おしく思えます」とおっしゃいました。皆さんが大切な生徒だからこそのお言葉です。先生方の厳しいお言葉や励ましのお言葉は、生徒ひとりひとりを愛おしく思っている証です。そして、皆さんの「これから」のために叱咤激励してくださっているのです。高校時代に学んだことや考えたことは、皆さんの中に確実に種を蒔いているはずです。種を種のまままで終わらせないように、皆さん自身で大きく育ててください。

3年生の皆さんは、いよいよ卒業です。鹿児島中央高校で学んだことを誇りに、大きな一歩を踏み出してください。卒業 おめでとうございます。